

令和6年8月21日



(現在の保健環境研究所と職員)

保健環境研究所
代 表：092-921-9940
内 線：124
担 当：石橋

ワンヘルスセンター整備に向けた 「保健環境研究所」の取組を紹介します

福岡県では、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守る「ワンヘルス」の取組を推進しており、ワンヘルスを実践する拠点として、全国で初めて「ワンヘルスセンター」を整備し、この中核施設として現在の「保健環境研究所」を移転します。

本日は、ワンヘルスセンター整備に向けた保健環境研究所の主な取組と、現在、行っている研究の一例について紹介します。

1 ワンヘルスセンター及び保健環境研究所について

(1) ワンヘルスセンター

人の健康と環境の保全に関する調査・研究を行う「保健環境研究所」と、家畜に加え野生動物や愛玩動物の保健衛生を一元的に担う「動物保健衛生所(新設)」が相互に連携し、ワンヘルスを実践する拠点として、令和9年度中の供用開始を目指しています。

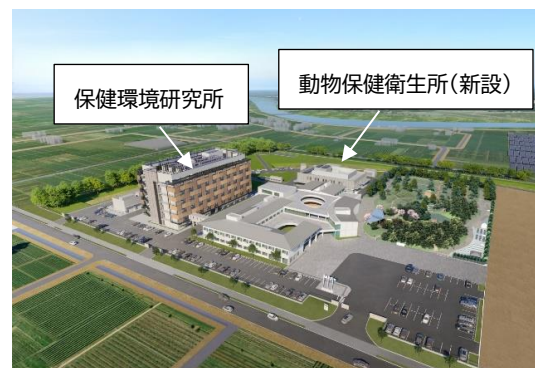
- ・建設地 : みやま市瀬高町高柳 960-4
- ・敷地面積: 100,414m²

(2) 保健環境研究所

全国の都道府県などに設置される「地方衛生研究所」及び「地方環境研究所」に位置付けられ、保健・環境行政を科学的・技術的側面から支え、新たな課題解決に向けた調査・研究、試験・検査、教育・研修、情報発信の業務を行っています。

ワンヘルスセンター整備にあわせて移転し、再整備されます。

- ・所在地 : 太宰府市大字向佐野39
- ・職 員 : 69名(研究職員59名)



ワンヘルスセンター(イメージ)



ワンヘルス推進
ポータルサイト



保健環境研究所
公式 X

2 ワンヘルスセンター整備に向けた主な取組

(1) 研究力の強化

ワンヘルス統合データベース※の構築に向けた高性能ワークステーションや、文献検索ができる研究基盤の整備などに取り組んでいます。

※病原体情報やレセプトデータなどを一元管理するデータベース

(2) 専門人材の育成

博士号取得の支援の他、e-ラーニングや学会派遣によるリスクリングの導入を行っています。

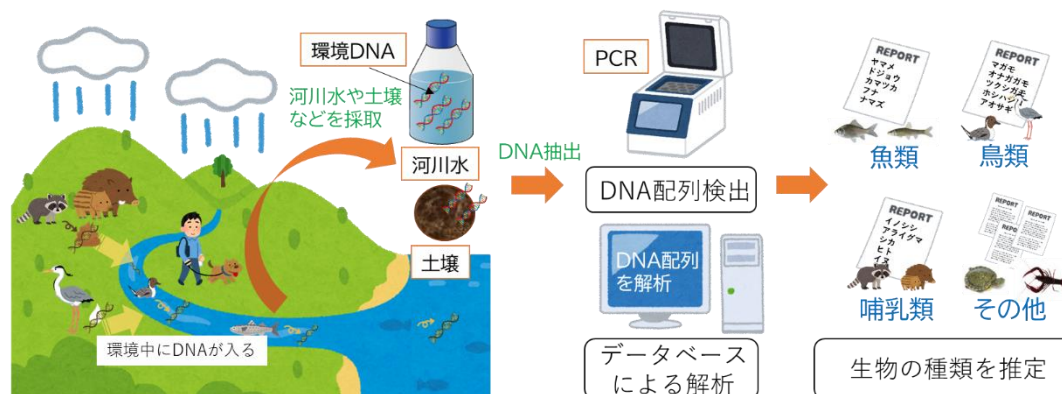
3 研究の一例

保健環境研究所では、ワンヘルス推進に寄与する研究に取り組んでいます。その一例を紹介します。

人獣共通感染症対策や生物多様性保全などへの活用を目指した 「環境DNA技術に関する研究」

河川水や土壌などの環境中には、生物から剥がれ落ちた体表や糞などの生物由来のDNA（環境DNA）が存在しています。これを検出・解析することにより、専門的知識がなくても少ない労力で環境中に存在する生物の種類が推定できます。この環境DNA技術に関する研究成果を、人獣共通感染症対策や生物多様性保全などに活用することを目指します。

<環境DNA技術のイメージ図>



<研究内容>

○令和元年度～

- ・環境DNA解析用データベースの作成と魚類を対象とした河川水の適切な採取方法の検討

○令和4年度～

- ・哺乳類などを対象とした河川水や土壌などの適切な採取方法の検討

【人獣共通感染症対策への活用】

感染症を媒介するマダニが付着するイノシシなどの分布状況が明らかになれば、マダニ媒介感染症に対する県民の皆様への注意喚起に活用できます。

【生物多様性保全への活用】

希少生物などの存在の把握など、生態系を守り豊かな自然環境を保全するためのモニタリング（監視）に活用できます。